



## 2011年度 大川賞受賞者

### 受賞理由

わが国におけるインターネットの技術基盤の構築と普及  
およびグローバル化に関する先導的かつ社会的貢献

## 村井 純 博士

**現職** 慶應義塾大学 環境情報学部 学部長・教授

**学位** 工学博士(慶應義塾大学 1987年)

**生年月日** 1955年3月29日

**略歴** 1979年 慶應義塾大学  
理工学部 数理工学科卒業  
1984年 慶應義塾大学  
大学院工学研究科 後期博士課程  
1984年 東京工業大学  
総合情報処理センター 助手  
1987年 東京大学 大型計算機センター 助手  
1990年 慶應義塾大学 環境情報学部 助教授  
1997年 慶應義塾大学 教授  
1999-2005年 慶應義塾大学 SFC研究所 所長  
2005-2009年 学校法人慶應義塾 常任理事  
2009年 慶應義塾大学 環境情報学部長  
その他、  
(社)日本ネットワークインフォメーションセンター  
(JPNIC)理事長(現在は理事)  
内閣官房 情報セキュリティセンター  
情報セキュリティ政策会議 委員  
社団法人情報処理学会フェロー  
日本学術会議第20期会員  
内閣 高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部  
(IT戦略本部) 有識者本部員など、各省庁委員会の  
主査や委員などを多数務め、国際学会などでも  
活動する。

**主な受賞歴** 1986年 第1回 元岡賞  
1999年 大川出版賞  
2001年 情報通信月間 総務大臣表彰  
2002年 情報化月間 経済産業大臣表彰  
2005年 ジョンポステルアワード Internet Society  
2007年 船井業績賞  
2011年 IEEE Internet Award

### 主な業績

村井 純博士は、日本におけるインターネット黎明期からインターネット技術基盤の研究開発と普及、インターネットの多言語対応などグローバル化にも多大な貢献をし、「ミスター・インターネット」とも称され、次のようなさまざまな業績をあげてこられました。

#### (インターネットの基盤と普及)

1984年に日本のインターネットの祖となった日本の大学間ネットワーク『JUNET』を創設、1988年には、日本のインターネットの研究開発と産業創成の根幹となる産官学コンソーシアムであるWIDEプロジェクトを設立されました。WIDEプロジェクトでは、2010年まで代表を務められ、現在もファウンダーとして、これまで、インターネットに係る最先端の研究開発のリーダーシップを担われ、指導にあたられています。

また、インターネットシステムの構築・運用・ガバナンスに関して、

日本のみならずアジアの代表として関わり、80年代からインターネット上のメールシステムの国際化および日本語化の推進、インターネットの基盤システムであるドメインネームサーバ(DNS)の運用と普及にも尽力され、現在のインターネットの基盤構築に貢献されてきました。その研究の一部は当財団の研究助成によって行われることとなりました。

#### (インターネット技術標準化と日本の貢献)

90年代には、特にインターネット技術の標準化に尽力され、IAB(Internet Architecture Board)としてIETF(Internet Engineering Task Force)におけるIPv6標準化の策定に努めてこられました。また、現在もインターネット運用の基盤であるルートネームサーバの運用委員会議長を務めるなど、グローバルなインターネットの維持発展に寄与されています。インターネット関連の数多くの国際会議を議長やボードメンバーとして誘致し、日本における技術普及、日本から世界へ向けて、貢献の場を創出されておられます。

#### (グローバルインターネットガバナンス)

ISOCやICANNなど、インターネットのグローバルな発展を推進するための組織の創設に深く関与され、ボードメンバーとして積極的な活動を継続されておられます。

#### (日本のIT戦略および、通信と放送の融合)

2000年から2009年まで、内閣 高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部(IT戦略本部) 有識者本部員として、e-Japanの実現に向けた数々の提言と施策の推進に貢献されたほか、内閣府のみならず、各省庁委員会の主査や委員を多数務められております。

#### (人材育成)

2005年より2009年にかけて、慶應義塾大学 研究担当常任理事として、研究推進体制の強化を図り、その後、同大学環境情報学部長としてキャンパスのグローバル化を推し進めてこられました。

WIDEプロジェクトでは、大学の枠を超えてインターネット人材を育成し、国内外で多くの博士号を輩出されています。特にアジアにおいては、衛星によるアジアのインターネット基盤(AI3)構築を通して、アジア各国でIT人材を育成されると共に、アジア各国の大学とインターネットを利用した教育協力体制を確立されてきました。(SOI Asia)。現在もAI3とSOI Asiaプロジェクトのチェアを務められております。

#### (インターネットと社会)

今日まで一貫して、インターネットが社会と人類にどのように受け入れられるかという姿勢で研究に取り組んでこられ、2010年には慶應義塾大学SFC研究所に「インターネットと社会」ラボを設立されました。世界の主要研究センターとの連携を構築し、グローバルなインターネット社会の構築に対する技術課題、社会的課題の解決に向けて、現在も研究を続けておられます。

このように博士は、わが国におけるインターネットの技術基盤の構築と普及及びグローバル化に関し、先導的かつ顕著な社会的貢献をされました。ここに、大川賞を贈呈しその功績をたたえるものであります。